

令和4年度 中央区立明石小学校 外部評価報告書

外部評価委員： 守本利雄、石井吉郎、中川理巳、箱守由記、牛嶋智春、桑原洋一、矢田雄磁、
須田桐美、渡辺幸雄、岩上芳照

報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和5年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「確かな学力の定着・向上」について

評価指標①「タブレット端末を効果的に活用した授業展開ができたか。」は保護者の77%、教員の82%が「十分達成している」「達成している」の評価である。しかし、保護者14%が「改善を要する」「緊急に改善を要する」、9%が「わからない」と回答し、教員の18%が「改善を要する」と回答している。保護者のタブレット端末を活用した学習活動の期待とタブレット端末を活用した授業に改善する必要があると感じる教員の実態がある。タブレット端末を活用する授業づくりについて全教員が理解し、必要な指導技術の習得を期待する。また、保護者にタブレット端末を活用する授業について正しく理解してもらうなどの発信が求められる。評価指標③「児童が、『わかる、できる、楽しい』を実感できる授業展開ができたか。」は、保護者の88%、教員の92%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。学校が「明石スタンダード」の定着や「授業づくり」の基本を全学級で実践した成果である。教員の7%が「改善を要する」と回答している点は貴重である。児童の実態など多様な視点から、分析・考察し次年度への改善策につなげることを期待する。

重点目標2「豊かな心の育成」について

評価指標①「児童が、状況に応じたあいさつをすることができたか。」は、保護者の79%、教員の97%が「十分達成している」「達成している」と回答している。保護者と教員の回答の差は18%と大きい。学校全体であいさつの指導の成果がみられるが、保護者の17%は「改善を要する」と回答している。児童の学校外の実態を把握するなど家庭・地域との連携を図り、児童が生活の様々な場面で自発的にあいさつができるような心の教育を期待する。評価指標②「児童が、規律ある学校生活を送ることができたか。」は、保護者の91%、教員の90%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。また、評価指標③「教師の言葉遣い、児童の発言や言葉遣いが、他者を尊重しているものになったか。」も保護者の85%、教員の90%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。重点目標2は、「状況に応じたあいさつ」「規律ある学校生活」「他者を尊重する言葉遣い」の評価指標で、これらの項目が高い評価を得ていることは、「安心・安全な学校」を目指す教育活動を意図的・計画的・組織的に取り組んでいる成果である。

重点目標3「健康・安全教育の充実」について

評価指標①「児童が長縄記録会や短縄教室、短縄旬間等にめあてをもって取り組み、日常的に運動に親しみ体力を向上させたか。」は、保護者の87%、教員の79%が「十分達成している」「達成している」と回答しているが、教員の21%が「改善を要する」と回答している。「長縄記録会」「短縄教室」「短縄旬間」の取組の課題か児童の「体力の向上」の課題かなどを分析・考察し改善策を明らかにすることが求められる。評価指標②「児童が、安全な行動を意識して生活できたか。」は、保護者の93%、教員の97%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。学校が取り組んでいる安全指導日の朝の10分間を安全に関する問題を取り上げる活動を工夫することや朝の会・帰りの会等で繰り返し安全について指導した成果である。評価指標③「児童が、自分の健康を考えて生活できたか。」は、保護者の85%、教員の86%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。

2 今後の改善に向けた意見

- (1)保護者アンケートの回収率が56%である。実態の解明と家庭との連携を図る改善を期待したい。
- (2)保護者アンケートで「わからない」と回答した保護者の実態を考察し改善を期待したい。

3 その他の意見

- ・評価指標の文言を吟味し、保護者等に教育活動の評価を分かりやすくする工夫することを期待したい。
- ・学校ホームページ、Google Classroom、保護者会等を活用し教育活動の理解を図る工夫を期待したい。

外部評価報告書 様式

令和4年度 中央区立明石小学校	外部評価報告書
外部評価委員：守本利雄 石井吉郎 中川理巳 箱守由記 牛嶋智春 須田桐美 渡辺幸雄 岩上芳照 桑原洋一 矢田雄滋	
報告書作成者：峯川一義	
評価時期 令和5年2月	
<p>1 重点目標の評価</p> <p>重点目標1「確かな学力の定着・向上」</p> <p>○タブレット端末の活用については、教員の肯定的な評価は82%であった。活用の仕方にとどまらず有効に活用できた場面などを教員が互いに持ち寄り学校全体で共有しながら、授業改善を図ることが大切である。</p> <p>○朝学習や朝読書の実施状況と児童の学習内容の定着の関連が不明である。学力の定着・向上の目標の達成の有無は、区や都、国で実施している学力調査などの結果からも検証する必要がある。</p> <p>○「わかる、できる、楽しい」授業の実践については、教員92%、保護者88%と双方が高い評価をしている。児童も学習習慣を身に付けている(93%)と回答しており、教員が一丸となり学習指導に成果を挙げている様子がうかがえる。</p> <p>重点目標2「豊かな心の育成」</p> <p>○「あいさつ」の励行については、教員と保護者の意識にやや乖離がある(18%)。児童の学校の姿と、家庭での姿についての受け止めの違いとも考えられるが地域の方々から率直な情報を求めるなど多方面からの情報収集をして学校外の様子を把握することも必要であろう。</p> <p>○児童の規範意識については、教員、保護者、児童とも90%超の肯定的な評価をしており、学校の日常の指導の成果が表れている。</p> <p>○教師の言葉遣いは、教師の人権意識とも強く関わってくる。教員、保護者とも高い肯定的な評価をしており、教員の意識の高さがうかがわれる。今後も教員同士で不適切な言葉遣いが見られたときには互いに指摘し合うような雰囲気醸成することが大切である。</p> <p>重点目標3「健康・安全教育の充実」</p> <p>○特色ある体育的活動の充実を目指し、日頃から学校を挙げて取り組んでいる様子がうかがえる。今後増加する児童数に対応した運動の活動場所の確保や活動の仕方などを早急に示すことが課題であるという意見が評議委員会が出された。</p> <p>○安全指導・安全学習の実施について、教員、保護者とも90%を大きく上回る評価であった。評議委員会においてもこの結果を高く評価しつつ、今後ともマンネリ化を防ぎ、常に危機管理意識をもって安全指導に当たってほしいとの意見が出された。</p> <p>○保健指導についても、教員、保護者ともに肯定的評価が85%を超えた。しかし、教員の「十分達成」は14%と高くない。学校では要因となるこの問題点を把握しており、問題解決のためにハンカチ、ティッシュの使用を含め再度徹底する必要がある。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <p>○各目標重点目標に対して3つずつの教員と保護者のアンケートはほぼ整合性が見られたが、児童アンケートは1つにまとめられていた。児童アンケートも教員、保護者のアンケートと整合性をもたせる必要があるのではないかと。</p> <p>○保護者アンケートの回収率が60%に満たないという結果は、重く受け止める必要がある。提出した保護者は学校に対して概ね好意的な意識をもっていることがアンケート結果からも推測できるが、問題点を明らかにして学校改善の糧にしてほしい。</p> <p>3 その他</p> <p>○平日の授業参観は、コロナの影響もあって一度しかできなかったが、通常学級、特別支援学級とも教員と児童の良好な人間関係が築かれているように見受けられた。児童数の増加を見越して新たな課題解決への早期の対応が求められている。</p>	